

衣のNGO

ふるぎのゆくえをいかに?

JFSA

わたがたがくらしをささえる
せかいのきおとさをかしたえる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10
Tel・Fax : 043-234-1206
E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp
ホームページ : <http://www.jfsa.jp.org/>

会報 41号 2016年9月

特集 パキスタン派遣報告

キャンパス7が7月にスタートしました。先生はキャンパス2の卒業生のサイマさんです。どうして先生になろうと思ったのか、サイマさんに伺いました。………派遣報告「新分校 “キャンパス7” 開校」(6~7P)



先生のサイマさん（中央）にインタビューをする事務局の依知川（右）とアル・カイルアカデミーのタスニム副校長（左）

目次

| | |
|-------------------|------|
| 第53回コンテナ送り出し&到着報告 | 2~3p |
| ●特集● パキスタン派遣報告 | |
| 事業を続けていくために | 4~5p |
| 新分校”キャンパス7”開校 | 6~7p |
| アル・カイルアカデミーのイベント | |
| “ファンクションセレモニー” | 8~9p |

| | |
|---------------|--------|
| 招日報告 | 10~11p |
| チャエケサート | 11p |
| 千葉センター便り | 12p |
| 東葛センター便り | 13p |
| 心根（こころね）フリマ通信 | 14p |
| チャリティバザール報告 | 15p |

古着のゆくえを追いかけてよう

皆さまから寄せられた古着などを選別して、コンテナに積めてパキスタンに送り出しています。



送り出しまでに・・・その2
 プレス機で衣類を圧縮梱包（小さく）していきます。
 これをペールと呼んでいます。
 できあがったペールが手前にあります。
 毎回のコンテナの送り出しのために約500個作ります。



送り出しまでに・・・その1
 古着を選別していきます。
 国内販売 & パキスタン輸出用に分けます。
 分ける種類は約250種類！



スタート
 皆さんから寄せられた古着や毛布が
 JFSAIに届きました！



7月2日（土）9：00 積み込み作業スタート！！
 40フィートコンテナ（長さ12m）が千葉センターに到着。
 35名のボランティアの皆さんと一緒に積み込み作業スタートです。



10：00頃 中身は何だろう・・・
 中身と種類ごとの重さが日本でもパキスタンでも分かるよう
 番号を付けていきます。
 これはタオル（ID：40番）の3個目で、1個50kgです。
 青色のラベルはパキスタンでの卸価格が高いものです。



11：00 4分の1終了
 コンテナの中も台車を使ったり転がしたりして運び、
 2段目以上は手で持ち上げ、詰み上げていきます。



10：20頃 転がしながらコンテナへ・・・
 ペールの重さは1個50kg！
 ローラーを使って、コンテナまで動かしながら運んでいきます。



17:00 完了! 24トン409kg
ギッシリ詰まったコンテナの前で。お疲れ様でした。



16:30 最後まで隙間なく。
1円でも多く利益を生み出すために
1kgでも多く積みこんでいきます。



7月5日横浜を出港
約1カ月の航海を経て
パキスタンのカラチ港到着



8月10日 荷役労働者たちと荷下ろし作業

AKBG 事務局のカユーム氏、アル・カイルアカデミースタッフのナ
ヴィード氏、アサド氏、ザヒッド氏、サッタル氏、JFSA 事務局の依
知川、田辺が卸業者の倉庫に荷物を下ろしました。
この日は(社福)グリーンコープのコンテナの荷下ろしも行ないました。
積み込む時は40名以上ですが下ろす時は16名でした。
また、8月2日と3日にAKBGは1卸業者と価格交渉を行ないました。
(結果は下記参照)



カラチ市内の古着屋

この店は男性物を売っている。アメリカやヨーロッパ、日本
からの古着が売られていた。半袖は1着300~400ルピー。
(300~400円 日本の価値に換算すると2100~2800円程)



利益はアル・カイルアカデミーの運営を支える資金に
古着販売で得た利益は先生のお給料などになります。
写真:本校で給食を待つ女の子。給食は希望者のみ(毎日約200名)。

JFSAコンテナ

第52回コンテナ (2016年4月送り出し)

送り出し総重量: 24トン122KG
利益 : 141万5027ルピー (1ルピー=1.04円)
販売価格: 107ルピー/KG(111円/KG)
経費 : 116万6027ルピー (運賃・関税・古着代金)

第53回コンテナ (2016年7月送り出し)

送り出し総重量: 24トン409KG
利益 : 149万4630ルピー (1ルピー=0.98円)
販売価格: 110ルピー/KG(108円/KG)
経費 : 119万360ルピー (運賃・関税・古着代金)

グリーンコープコンテナ

第11回コンテナ (2016年6月送り出し)

送り出し総重量: 23トン869KG
利益 : 91万6896ルピー (1ルピー=0.98円)
販売価格: 80ルピー/KG(78円/KG)
経費 : 99万2304ルピー (運賃・関税・古着代金)

送り出しボランティア募集

パキスタンへ古着を一緒に送り出しませんか?
次回(55回)の予定は1月中旬。
詳しくはJFSAまで。

パキスタン派遣報告

事業を続けていくために

海外事業担当事務局 田辺 航太郎

7月27日(水)～8月11日(木)

●同行者

大地を守る会 豊島洋さん、猪狩篤さん

●派遣旅程

7月27日(水)～29日(金)タイ・バンコク滞在

(古着卸マーケットの調査)

7月29日(金)～8月1日(月)

パキスタン・バラコート滞在

8月1日(月)～10日(水)

パキスタン・カラチ滞在

8月11日(木) 成田空港帰国

I. AKBG事業活動の推進

・コンテナ荷下ろし立会い

JFSA・第53回 グリーンコープ・第11回

7月2日に送り出したコンテナの荷下ろしを行ないました。8月5日に行なう予定でしたが、船の遅れと大雨による配送の遅れが生じ、派遣最終日の8月10日となりました。カユーム氏、ナヴィード氏、アサド氏、ザヒッド氏、サッタル氏がアル・カイルアカデミーより参加しました。財団法人日本・パキスタン協会「のイベントを通じて知り合った、パキスタンで衛生用品の事業の準備を進めている、三原さんが見学いらっしやいました。

・コンテナの価格交渉立会い

8月2日にニアーズ氏と、8月3日にワリー氏と行ないましたが、今までの価格と比べてとても安い価格の提示となりました。パキスタンからの主な輸出入の一つであるイランが古着輸入禁止となっていることと、同じく輸出入のアフガニスタンは新たに古着輸入に対して1KG当たり1ルピー課税されるようになったため、以前の価格同様に買い取ることは難しくなったとのが理由でした。派遣期間中での成立には至りませんでした。

・タイの古着卸マーケットの調査

主に女性物など、パキスタンで販売価格の低いアイテムの販売の可能性を探るため、調査に訪れました。カユーム氏の知人で、タイで古着卸商を営んでいる、パキスタン人のアリ・シャヤー氏に案内してもらいました。

アリ・シャヤー氏はバンコク市内の特別輸出加工区と、バンコクから東へ約250kmに位置するカンボジアとの国境、サケーオ県アランヤプラテート郡にあるロンクルア市場に拠点をもち、パキスタンやアメリカなどから古着を仕入れ、タイ国内外で販売しています。古着市場については、タイ国内よりもカ

ンボジア、ミャンマーへの輸出が主なようでした。女性ものに関しては、今後サンプルを送ればアリ・シャヤー氏がリサーチしてくれると提案を受けたので、AKBGと協議の上で進めていきたいと考えています。輸出加工区にはミャンマーの人が一人暮らしアパートがあるなど、重労働は出稼ぎ労働者が多いようでした。今後、タイで活動する機会ができれば、そうした調査も行なっていきたいと考えています。



タイのロンクルア市場内の古着屋が並ぶ一角
広大な敷地内には古着だけでなく様々な日用品を扱う店舗も

・輸入古着買い付け

卸業者ワリー氏が持っている特別輸出加工区(Export Processing Zone、以下ゾーン)とシエールシヤ(カラチ市の倉庫街のひとつ)の2件の倉庫で、日本で販売するためのアメリカやヨーロッパの古着を買い付けました。東葛センター併設の古着ショップKapre(カプレ)で主に販売しています。

輸入古着は、バリエーション豊かな各国の商品が「売り」ですが、一方で人気の商品を安定して輸入し続けることが課題となっています。特に卸売りに関しては、人気の商品を多く仕入れられるかどうか売り上げに大きく影響します。今回の買い付けではヨーロッパの商品が少なかったため、それを期待しているお客さんにとっては魅力のない買い付けになってしまったのではないかと心配です。

ヨーロッパの商品が少なかった理由については、ヨーロッパからパキスタンへの輸入が少なかったためです。以前の会報でも書きましたが、パキスタンでの古着は国内で消費される物と、国外に輸出される物に分かれます。その輸出されるものに関して最近アメリカの物が人気なため、アメリカから輸入する割合が増えているそうです。そうした事情に左右されずに事業を続けていく形を模索していくことが、今後の課題となっています。

II. アル・カイル教育事業の確認

・青空学校の今後について

7月30日から8月1日にかけて、ケート・サラシ村の青空学校を訪問してきました。今回の主な目的は、事業により学校の運営費を継続して作っていくための視察でした。

まずは、ケート・サラシ村から少し離れたやや大きな街、マンセラでの古着販売の可能性についてです。古着の取り扱いに関しては経験や人間関係があるため、比較的すぐに取り組めるのではないかと考えています。街ではマーケットの状況を見たり、店主から話を聞いたりしました。そこでは日本から輸入された中古のカーテンなども一部で販売されていました。あまり大きな規模のマーケットではなかったので、もう少し離れた場所にあるアボタバードという街のマーケットの調査も行なうことになりました。

次は、チャードルという大きなウール製のシヨールについてです。これは現地の工房で織られており、産業になっているとのことでした。このチャードルを仕入れて日本で販売することを考えています。今回2軒の工房を訪ねて話を聞きましたが、それらの建物や道具が2005年のパキスタン北部地震の際に壊れて、工房の数が減っているとのことでした。また、1軒ずつの生産数が少ないので、事業として取り組むためには何軒かと合わせて行なう必要があるそうです。

最後に杏など、現地の畑で作られている農産物についてです。学校周辺ではまとめて作っている農家のような形では生産されておらず、家庭菜園のような形が主であるため、現状では事業として取り組むのは難しいのではないかと判断しました。

これらの事業を複合的に行なうことで運営費を作っていくことについて、今後検討を重ねていくことを確認しました。



工房でチャードルを織る職人
「日本の着物もこうして織っているんだろう?知っているよ。」

新分校、“キャンパス7”開校

海外事業担当事務局 依知川 守

5月9日(月)～5月19日(木)
7月27日(水)～8月11日(木)

新分校のキャンパス7が7月に開校しました。先生はキャンパス2の卒業生のサイマさんです。アル・カイルアカデミーの継続した活動が、チャンスの連鎖を生み始めていると感じています。

・アル・カイルアカデミーの原点

1987年、カラチ市のニューカラチというスラム地域で10人の子どもたちとムザヒル校長が小さな学校を開きました。彼は勉強を教えるより前に、まず集まった子どもたちの足を拭いてきれいにしたそうです。その頃の様子をムザヒル校長はこう語ってくれました。「当時、この本校の周りはマフィアが多く、ドラッグや犯罪が蔓延していてとても危険な状態でした。私はこの地域を選び学校を始めることにしました。初めは部屋も屋根も、敷き布すらありませんでした。そこに存在したのは子どもたちと私だけでした。」

学校はその後29年に渡って子どもたちや親たち、地域で暮らす人々と交わり、信頼関係を作りながら歩み続けて現在では本校と分校

合わせて約3500名が通うほど大きくなりました。しかし、ムザヒル校長にとつての原点はその「青空教室」にあるようです。「今でも大きな他校の先生がアル・カイルアカデミーに見学に来て、子ども達が地べたに座って授業を受けている様子を見ると、不快感を示すことがあります。しかし本来、学校には立派な建物など必要ないのです。必要なのは情熱を持った先生です。しかし、そのような先生は学校のように作ることは出来ない。だからこそ私は先生を育てる努力をしたのです。」

そしてこう付け加えました。「先生の目的は生徒に教えるという事だけではありません。大切なのは生徒とどのように関係を作れるかということ、その関係が教育の基盤なのです。」(関連記事 10P 招日報告)

・教育の目的とは・・・

8月のパキスタン派遣中、アル・カイルアカデミーのカレッジに通う女子生徒7名が本校を訪ねてきました。彼女たちはカラチ市の統一テストで“A1”という最も優秀な成績

をおさめた生徒たちでした。それぞれに将来はどんな道に進みたいのか尋ねると、全員から「医者になりたい」という返事が返ってきました。実際、彼女たちの中から何人もの医者が生まれる日は近いと感じます。以前は経済的な理由で不可能であった医者への進学の道も、学校が個別に奨学金を用意することで、少しずつチャンスが生まれています。

「別の学校では、良い成績を取ること、そして将来エンジニアや医者になることを目的に教える先生がとても多いです。しかしこの社会は様々な仕事をする人々によって成り立っています。生徒達には仕事への偏見を持って欲しくないし、自分の夢が叶わなくても様々な選択肢があるということを伝えたいのです。」とムザヒル校長は言っています。

経済的な事情や家族の問題などで中途退学せざるを得ない生徒もたくさんいます。一人ひとりが学びの中で人間として育ち、様々な可能性の広がる場であってほしいと願っています。

・キャンパス7が照らす今後

アル・カイルアカデミーは、昨年の暮れにキャンパス4・5・6と続けて分校を開校しました。そして今年5月、ムザヒル校長からキャンパス2の第1期卒業生のサイマさんが嫁いだ先のスラム地域で、分校を開く予定があると聞きました。どうやら周辺に学校がなく、サイマさんがマトリックテスト（高卒認定試験）まで学んだことを近所の人たちが聞きつけ、学校を開いてほしいと要望が寄せられているとのことでした。そして彼女は7月中旬に自宅の中庭で青空教室を始めたそうです。

私は8月に、サイマさんのお宅を訪問しました。中庭には35名の子どもたちが集まり、サイマさんは英語を教えていました。彼女の授業をアル・カイルアカデミー副校長のタスニームさんや他の先生も見守り、必要に応じてサポートしていました。

私は、先生という仕事についてサイマさんに尋ねました。「私はキャンパス2が出来る前、学校というものが何なのか全く知らず、良いことと悪いことの区別もよく分かりませんでした。キャンパス2で初めて『先生』に出会い、先生は文字通り私の手を取り勉強を教えてくれました。学校で勉強できることが嬉しかったです。そして学び続ける中で、ゴミ捨て場の仕事から外に出たいと思うようになりまし。そのことを親にも伝え、許してもらいました。私の目の前のこの子たちも、

将来先生になるかもしれません。ここで教えることが心から嬉しいです。」中庭の教壇に立つサイマさんの姿からは、物静かな人柄に宿る情熱が感じられました。

ムザヒル校長はサイマさんについて教えてくださいました。「サイマは今18歳です。10年前から、優秀な彼女に『将来は先生の仕事をしたいかどうか?』と話していました。そして本人も2年前から本格的に先生になりたいと思うようになりました。今後はこの分校にサイマともう一人中心になる先生が必要だと考えています。ただし、どちらかが上に立つというのではなく、お互いに相談し合う対等な立場であることが大切です。今は彼女の自宅が教室ですが、私たちはこの分校のための場所を周辺で探しています。」

・生まれ始めたチャンスの連鎖

彼女は学校で学んだ体験を活かし、今度は自らが核になり子ども達の学びの場を開きました。また現在キャンパス2の分校長を務める本校卒業生のカシフさんは、午前学校で働いた後、午後カレッジへ通っています。サイマさんやカシフさん以外にも多くの卒業生がアル・カイルアカデミーで先生として働いています。卒業生たちが次の世代の学びのチャンスを作る、これまでの継続した教育活動がチャンスの連鎖を生み始めていると感じます。一方でこのような教育活動の広がりを与える財政的基盤も重要です。現在、アル・カイルアカデミーの運営費の約3分の1がJ

FSAと（社福）グリーンコープ、AKBGによる古着販売事業によって賄われています。今後もJFSAは古着販売事業を推進したいと思います。そして同時に学校の卒業生たちが様々な形でアル・カイルアカデミーの活動を支えていくことを期待しています。



本校を訪問した女子生徒とムザヒル校長（左から3番目）
タスニーム副校長（右から2番目）



新分校キャンパス7

子どもたちに英語を教えるサイマ



アル・カイルルアカデミーのイベント 「フアンクシオンセレモニー」

広報担当事務局 桑山 奈々

5月9日(月)～5月19日(木)

・コンテナ荷下ろし立ち会い

4月1日に送り出したコンテナの荷下ろしを5月12日に行ないました。今回も検査等はなく無事おろすことができました。荷役労働者(マズドゥーリー)4名とJFSA事務局の依知川、桑山、アル・カイルルアカデミーのカユーム氏とナヴィード氏で荷物を下ろしました。12時近くに始まった荷下ろしは、昼食休憩を挟みながら夕方4時半頃、ニアーズ氏の倉庫に全て下ろすことができました。

荷下ろしが始まる前、ニアーズ氏のビジネスパートナーであるサイド氏から古着の卸売情勢について話を聞くことができました。日本からの女性物は、パキスタンではとても安い価格ですが、安ければ売れるルートはあるそうです。また、今はイランやアフガニスタン、イラクに販売をしているそうです。サイド氏はアフガニスタン出身です。首都のカ

ブルから車で6時間ぐらいの場所だそうです。「私の故郷はとても景色のきれいな場所です。きれいな海と空、花があれば幸せに暮らしていくことができます。そして一生懸命、自分の仕事をしていくことです。」

・コンテナ価格交渉の立会い

5月10日の夜にムザヒル校長宅でニアーズ氏と価格交渉を行ないました。価格交渉の前に1つ嬉しい知らせがありました。4月20日より古着の輸入にかかる税金が40万ルピーから20万ルピーとほぼ半額になりました。これは、AKBGが受け取る利益が増えることを意味しました。価格交渉は20時頃から始まり、11時頃まで続きました。当初、AKBGは115ルピーを要求、ニアーズ氏は96ルピーを提示し、今回もこれまで同様大きな差が生まれました。話し合いの後、ニアーズ氏はパッキングリストも見ても100ルピー以上は難しいと言ってきました。それを受けて

AKBG理事のイザハル氏は「カユームさんがマーケットで調査をしたところ、106ルピーが妥当の価格だろうと私たちは考えている。この価格には嘘偽りはない。106ルピーで決めてくれないか?」とニアーズ氏に伝え、ニアーズ氏もこれを受けました。最終的にここから1ルピー上がった107ルピーで妥結しました。5月10日の夜にムザヒル校長宅でニアーズ氏と価格交渉を行ないました。価格交渉の前に1つ嬉しい知らせがありました。4月20日より古着の輸入にかかる税金が40万ルピーから20万ルピーとほぼ半額になりました。これは、AKBGが受け取る利益が増えることを意味します。価格交渉は20時頃から始まり、11時頃まで続きました。当初、AKBGは115ルピーを要求、ニアーズ氏は96ルピーを提示し、今回もこれまで同様大きな差が生まれました。話し合いの後、ニアーズ氏はパッキング

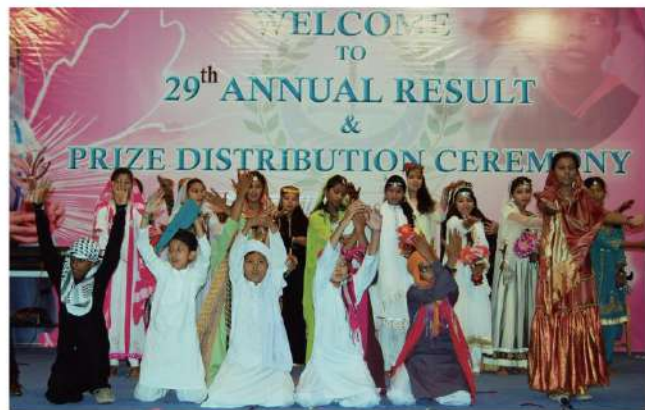
リストも見ても100ルピー以上は難しいと言ってきました。それを受けてAKBG理事のイザハル氏は「カユームさんがマーケットで調査をしたところ、106ルピーが妥当の価格だろうと私たちは考えている。この価格には嘘偽りはない。106ルピーで決めてくれないか?」とニアーズ氏に伝え、ニアーズ氏もこれを受けました。最終的にここから1ルピー上がった107ルピーで妥結しました。5月10日の夜にムザヒル校長宅でニアーズ氏と価格交渉を行ないました。価格交渉の前に1つ嬉しい知らせがありました。4月20日より古着の輸入にかかる税金が40万ルピーから20万ルピーとほぼ半額になりました。これは、AKBGが受け取る利益が増えることを意味します。価格交渉は20時頃から始まり、11時頃まで続きました。当初、AKBGは115ルピーを要求、ニアーズ氏は96ルピーを提示し、今回もこれまで同様大きな差が生まれました。話し合いの後、ニアーズ氏はパッキング

リストも見ても100ルピー以上は難しいと言ってきました。それを受けてAKBG理事のイザハル氏は「カユームさんがマーケットで調査をしたところ、106ルピーが妥当の価格だろうと私たちは考えている。この価格には嘘偽りはない。106ルピーで決めてくれないか?」とニアーズ氏に伝え、ニアーズ氏もこれを受けました。最終的にここから1ルピー上がった107ルピーで妥結しました。5月10日の夜にムザヒル校長宅でニアーズ氏と価格交渉を行ないました。価格交渉の前に1つ嬉しい知らせがありました。4月20日より古着の輸入にかかる税金が40万ルピーから20万ルピーとほぼ半額になりました。これは、AKBGが受け取る利益が増えることを意味します。価格交渉は20時頃から始まり、11時頃まで続きました。当初、AKBGは115ルピーを要求、ニアーズ氏は96ルピーを提示し、今回もこれまで同様大きな差が生まれました。話し合いの後、ニアーズ氏はパッキングリストも見ても100ルピー以上は難しいと言ってきました。それを受けてAKBG理事のイザハル氏は「カユームさんがマーケットで調査をしたところ、106ルピーが妥当の価格だろうと私たちは考えている。この価格には嘘偽りはない。106ルピーで決めてくれないか?」とニアーズ氏に伝え、ニアーズ氏もこれを受けました。最終的にここから1ルピー上がった107ルピーで妥結しました。5月10日の夜にムザヒル校長宅でニアーズ氏と価格交渉を行ないました。価格交渉の前に1つ嬉しい知らせがありました。4月20日より古着の輸入にかかる税金が40万ルピーから20万ルピーとほぼ半額になりました。これは、AKBGが受け取る利益が増えることを意味します。価格交渉は20時頃から始まり、11時頃まで続きました。当初、AKBGは115ルピーを要求、ニアーズ氏は96ルピーを提示し、今回もこれまで同様大きな差が生まれました。話し合いの後、ニアーズ氏はパッキング

5月14日、アル・カイルアカデミーでファンクションセレモニーが行なわれました。これは踊りや歌を披露したり、成績優秀者を表彰するイベントです。一方でムザヒル校長は「教育とはテストで良い点を取ることはない」と考えています。

今回の派遣中に、各校で成績が優秀だった生徒を表彰し、歌やダンスを披露するイベントに参加しました。3500人の子どもの中で、約300人ほどが参加します。会場はカラチ市内にある私立大学の講堂でした。会場を大学にした理由は二つあります。一つは子どもたちに大学とどのような場所かを感じてもらいたいということです。もう一つは、大学のある場所がカラチ市内の中心地で（お金持ちも多く住んでいる地域）、寄付者に来てもらいやすい場所だからです。

このようなイベントは、いつものように始まったのか、ムザヒル校長に尋ねました。「生徒が50人ほどの時から始めています。当時、彼らの親は学校に行ったことがなかったので、学校はどのようなものかを見てほしくて、学校の前で行ないました。子どもたちの親だけではなく、スラムに暮らしている大人たちも集まって、とても盛り上がりました。大学で行なうと寄付者は来てくれますが、子どもたちの家族に子どもたちの日頃の成果を見てもらうことができなくて残念です。」



パキスタンの伝統的な踊りを披露する子どもたち

スラムの厳しい暮らしの中で学び、表彰されることは大変なことだと思います。緊張しながらも壇上に上がる子どもたちには、私からの拍手を送りました。一方で、この場に参加できなかった多くの子どもたちの存在を忘れてはいけません。例えば親が病気やケガで仕事ができないため、自分が働かなければならないなど、様々な理由で学び続けられない子どもたちがいることを、子どもたち本人やムザヒル校長、タスニーム副校長から聞いています。学校に通う子どもたち



キャンパスで学ぶ女の子

この子どもたちはファンクションセレモニーに参加できたのだろうか・・・

ち全員が参加し、それぞれの心に残るイベントができればと感じました。

・答えを作り上げていくこと

ムザヒル校長は「教育とはテストで良い点をとることだけではない」と言っています。「子どもたちはテストのために学んでしまうと、それが終わると、すぐ忘れてしまいます。先生もテストのために正解を一方的に子どもたちに教えることになります。教育とは生徒が疑問に思ったことを先生と一緒に考えていきながら、答えを作り上げていくこと、積み上げていくことだと思います。」とムザヒル校長は考えています。

招日報告

「研修センターを作りたい」

7月にアル・カイルアカデミーのムザヒル校長とAKBG事務局のカユーム氏を招日しました。日本に来ること、新たに組みたいと考えている「先生たちの研修センター」とは、ムザヒル校長の思いを伺いました。

今年度2回目の招日を7月に行ない、ムザヒル校長とAKBG事務局のカユーム氏に来ていただきました。はじめは6月の招日を計画していたのですが、イスラム教の断食月に重なり、アル・カイルアカデミーが地元ドナー（寄付者）を回って寄付を集める期間になります。そのため、もしできるなら時期を変えてほしいとのことでした。断食月には300〜400万ルピー（300〜400万円）の寄付を集めているそうです。

ムザヒル校長に、日本に来ることをどう思うか尋ねました。「私はいつも学校のことを心の中でいろいろ考えています。日本に来ていろいろなどころでその考えを話す（外に出す）機会をいただきます。すると、皆さんから質問や意見をいただきます。それは自分にとっては研修のように意欲が高まることで、伝えることで自信も生まれます。また、いろいろな人に出会えることも楽しみです。」

そして、今回の招日では、ムザヒル校長が始めようとしている試みについて熱心に語ってくれました。それは、先生たちの研修センターを作ることです。

子どもたちがよい先生に出会うために

アル・カイルアカデミーはカラチ市北部のニューカラチというスラムにあります。周辺のスラムも含めた地域には約400の学校があり、多くは生徒数が300〜400名の規模の小さな学校です。ほとんどの学校は授業料を得ることが目的で教育について考えていないと、ムザヒル校長は顔を曇らせました。

「研修は、先生が意欲を高めるために必要です。互いが取り組んでいることを知ったり、新しい知識を得たりすることで意欲は高まります。子どもたちにとってよい先生とは、情熱を持って子どもたちに接し、いっしょに遊び、いっしょに食事をとることができる先生です。一人のよい先生が生まれれば100人の子どもたちに利益があります。私立学校などでは研修が行なわれていますが、場所も遠い上に費用が高いのでほとんど参加できません。研修センターを学校のあるスラム地域の中に作り、費用も安くします。先生が貧乏であれば無料にすることも考えています。アル・

カイルアカデミーの近くにも、いくつかの学校があります。そのうちのひとつの学校の校長は友人ですが、私の考えに賛成していません。他の学校にも呼びかけます。」とムザヒル校長は言います。

アル・カイルアカデミーでは先生の研修を行なっています。そしてこんなことを話してくれました。「一人の先生がアル・カイルアカデミーを辞めて、別の学校の先生になりました。私は先生が辞めたことを残念に思いませんでした。なぜなら、その先生が移っていた学校の子どもたちは、よい先生に出会えたからです。それは子どもたちにとって、とてもよいことで、私は嬉しく思っています。」



大地を守る会にて
左から大地を守る会CSR推進室豊島氏、代表藤田氏、カユーム氏、ムザヒル氏、JFSA事務局田邊

協働事業担当事務局 田邊 紀子

招日スケジュール

- 7月19日 カラチ発
- 7月20日 成田空港着
- 7月21日 生活クラブ虹の街理事会訪問
NPO法人アーシアン訪問
NPO法人APLA（あぶら）訪問
- 7月22日 生活クラブ埼玉訪問
JFSA東葛センターにて会員交流会
- 7月23日 フリーマーケット見学（船橋市民まつり）
甲状腺検診ちばの会代表倉形さんと話し合い
- 7月24日 JFSA千葉センターにて会員交流会
ハンサリム連合（韓国の生活協同組合）専務と話し合い
- 7月25日 JFSA理事会での報告会
- 7月26日 大地を守る会訪問
- 7月27日 帰国



APLAにて
APLA共同代表の秋山氏（右）、ムザヒル氏（中央）
JFSA事務局依知川（左）



JFSA千葉センター 会員交流会

チャイ ケ サート

回の数だけ言葉はある ジトゥニー ムゥーン ウトゥーニー バーティン



注がれるアツアツで
あまあべいチャイ

「甘いミルクティー（チャイ）」という意味、「ゲ サート」は「一緒に」という意味です。なので、「チャイと一緒に」や「チャイとともに」という意味になります。パキスタンでは1日に何杯もチャイを飲みます。そして、賑やかにおしゃべりを楽しみます。

ウルドゥ語にも慣用語やことわざがあります。JFSA事務局のウルドゥ語の先生、ゼーブさんにとの慣用語がパキスタンにはあるのか、それはどんな時に使うのか伺いました。

今回教えてもらったウルドゥ語の慣用語「ジトゥニー ムゥーン ウトゥーニー バーティン」。どんな意味なのか伺いました。「ああした方がいい、こうした方がいいと、様々な人に言われることを全て受け入れて物事を行なうことはできませんよね。こういう時に『人は人だよ』という意味で使います。」

パキスタンでも「良かれと思って」という助言はしばしばあるのですが、それは一般論より個人的な意見であることが

多いと思います。つまり回数の数ほどに多様というわけです。どれかの助言を採用する場合もあれば、今回の慣用語を心の中であらためて自分の考えを貫くこともあるということでしょう。

慣用語についてゼーブさんと話していても私はあらためて感じました。言葉は何かを伝える道具ではありますが、韻を踏んでみたり、言葉と言葉の間だったり、もちろん表情によっても伝わり方が様々に変化します。特にパキスタンでは身振り・手振りが加わることで、実に表現が広がるのです。そしてそのことが人としての魅力を大きく感じさせてくれるなあと、ゼーブさんの表情を思い返しながらかつづく思っています。



チャイを飲みながら冗談を言って笑い合う。
AKBG事務局のカユーム氏とアル・カイル
アカデミースタッフのアサド氏

千葉センターだより

常連さん

JFSAの事業の柱である販売の場は、千葉センター・東葛センターに併設の古着ショップのほか、毎週末のフリーマーケット(千葉県内・都内)、市民祭り、協力団体主催のイベントなどの様々な出店、協力団体のショップの軒先での販売があります。それぞれの売り場には、うれしいことに常連さんがいます。

毎月第4日曜日に開催されている、千葉銀座通り商店街のフリーマーケット(以下、銀座通りフリマ)には、毎回出店しています。千葉ショップが近い(バスで約10分)、お店の宣伝も兼ねています。そのおかげもあってか、銀座通りフリマでJFSAのことを知り、お店の常連さんになってくれた方もいます。

銀座通りフリマの常連さんの中に、毎月買い物に来て下さる80歳位の女性がいます。先日はお店に買い物に来て下さいました。バスに乗るのもおっくうになってしまっかなか来られないと言いつつも、年に1、2回は顔を見せて下さり、私もお会いできるのを楽しみにしています。話をすると、JFSAで買い物をするのがとても楽しみで、収入の中から毎月数千円を、銀座通りフリマのために貯めているそうです。「今月は銀座通りフリマでも買ったし、こっち(お店)にも来たから予算オーバーよ！」と言いつつも、大きな袋に2袋分買い、タクシーで帰っていきました。

千葉ショップでは、2ヶ月に1回程、季節の変わり目に合わせて割引セールを行なっています。セールの前には、アルバイトスタッフと一緒に準備に力を入れます。チラシのポスティングをしたり、新聞折り込みチラシを入れたり、通りから目立つ所にポスターを貼ったりと、初めてJFSAに来る方が増えるようにと頑張ります。

千葉ショップ担当事務局 大橋 紀子

また、すでにお店に来ていただいている方には、約1000人にハガキでセールの案内を出します。それと並行して、お店の方では商品の準備をします。メインの売り出し品である季節の品はもちろんですが、季節を問わず人気の新品日用雑貨類(下着・タオル・靴下・ハンカチ)、小物類(靴・靴・帽子・スカーフなど)は、品切れすることなく出せるようにしています。初めて来る方にまた来てもらい、その後も会うことを楽しみにできる一人になってもらいたいからです。

“常連さん”と言うとひとくくりになってしまいがちですが、具体的には一人一人との出会いです。気に入ったものを一つでも見つけてもらえれば、次にまた来てくれるかもしれません。その繰り返しの中でお互いに会うことを楽しみにできる関係になれたらいいなと思って、日々お店の仕事をしています。



品出しと入れ替えをする
アルバイトスタッフ



人気の新品ハンカチ・タオル
靴下・下着のコーナー

JFSA 千葉ショップ OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

☆住所 千葉市中央区都町 3-14-10
☆電話・ファックス 043-234-1206

☆アクセス

- ★JR千葉駅東口より1番乗り場のバスに乗り『都町球場入口』下車。徒歩1分。100円ショップダイソー裏。
- ★駐車場もあります。お車でどうぞ。



東葛センターだより

きまり

古着ショップ kapre (カプレ) 担当事務局 田辺 航太郎

JFSAの年度は10月から始まるため、今これを書いている9月が最後の月です。今年度は大まかに、「作業場の改善」、「インターネット販売」、「フリーマーケット出店」に取り組みました。

まず「作業場の改善」は、十分な作業スペースの確保と、保管場所の整理を行ないました。一年間かけて、端から順繰りやってきました。概ねうまくいきましたが、その一番の理由はカゴテナでした。協力して頂いている方のご紹介で、千葉センターと合わせて150台以上の中古のカゴテナを寄付して頂きました。そのおかげで仕分けした古着の保管、移動がとても楽になりました。

次に「インターネット販売」ですが、ホームページを作り、パキスタンから輸入したアメリカやヨーロッパの古着などの販売を行ないました。売上はいまいちでしたが、これをきっかけにそうした販売を行なっているお店を訪ねて話を聞かせてもらったり、身近で写真の上手な方からカメラ選びや撮影の協力をしてもらったりと、活動を広げられる可能性が感じられました。

「フリーマーケット出店」は、4月からアルバイトスタッフの石塚君が販売協力として出店していくことになりました。滑り出しは順調でしたが、売上の落ち込む夏場は苦戦しました。ただ、売り物の準備から後片付けまでの流れを全体で作ることにより、作業の流れを全体で意識できるようになりました。

こうした仕組みは、東葛センターのスタッフで相談しながら作っていきました。一緒に作っていく中で、作業場や規則などの環境は作ることができますが、それだけで仕事が成り立っているのでは無いと感じました。出た結果についても一緒に感じられるかどうかも大事なんだと思いました。それはアル・カイルに通う子どもたちへの気持ちも同じだと思います。みんなが同じように感じることはできませんし、それを規則にすることもできませんが、感じるための心がけは続けていきたいと思っています。



インターネットで販売しているジャケット



整理された作業場。カゴテナのありがたみで人も物も移動しやすい

JFSA 古着ショップ kapre (カプレ) OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

☆住所 柏市大室 176-1

☆電話・ファックス 04-7110-0984

☆ホームページ

<http://jfsa.sakura.ne.jp/mysite1/newpage1.html>

☆オンラインストア

<http://kapreonline.theshop.jp/>

☆アクセス

★つくばEX線「柏たなか」駅 徒歩10分。

★柏駅西口バス乗り場 5番乗り場03系統「柏市立高校」行「大室」バス停から徒歩1分。

★駐車場もあります。お車でどうぞ



トラックで出店！！

国内事業担当事務局 入江 賢治

私は週末はJFSAの車両で一番大きなトラックを使って、フリマやイベントでの古着販売を担当しています。このトラックはハイエースの3倍近い荷物をバンバン積めるかなり心強い味方です。その積載量を活かして、これまでハイエースでは積みきれず、販売チャンスをつくれなかったバッグや着物、ズボン類、女性のブラウスやカットソーをたくさん持って行っています（パキスタンでの卸売価格が低く国内ですでにできるだけ販売したい品目です）。トラックはいくらでも荷物が入るので、際限なく積んでしまい、フリマ会場で朝扉を開けて唖然とする・なんてこともあります。品数が増えたことで売場はどこにかく色とりどりいろいろな品物で溢れ活気が出たように思います。雑然とはしていますが、それがお客さんには「面白い」につながるようで「何か掘り出し物がありそう」「探しがいいがある・・」という声も聞きます。品物を出すと同時に人だかりができることもしばしばです。結果、トラック出店では売上げを伸ばすことができています。



JFSAのフリマ出店
文字通り「掘り出し」物があふれている

荷物が増えたところで、それに負けず挫けず販売を支えてくれているのが、アルバイトやボランティアのみなさんです。フリマ会場ごとにいろいろな方が販売に協力してくれています。特に千葉銀座通りフリマでは、ベテランアルバイトの方や敬愛大学ボランティアサークル「ラブ

&アクション」の学生、常連のお客さん（特に朝の準備の忙しい時間帯）と毎回3～5人ぐらいの方が参加しています。お客さんともそれぞれが顔見知りになっていて「この前いた若い子（学生さん）は今日来てないの？」と聞かれることもあります。

学生たちがお客さんとの関係を広げていったり、自分からJFSAの活動紹介や古着回収の案内をしている姿を見ると「やるな～！彼らに任せていけるな～！」と感じます。

JFSAは、古着販売の販路を広げていきたいと考えています。それは、自分たちだけで広げていく（店舗展開やフリマの出店会場を増やしていく）だけではなく、活動を通して出会った団体（グループ）との委託販売をベースにした「販売協力」という取り組みで広げていきたいと考えています。先日、社会福祉法人のオリーブハウスさん（自主事業としてクッキーやアイス等を製造・販売）と話しをした際、「祭りやバザーの繁忙期にはたくさんの支援者の協力を得て、多いときには一日30ヶ所以上で出店販売する、車で品物を置いて回るんです」と伺いました。トラック活用の第二段階として販売協力で活かす術はないか・・、オリーブハウスさんに刺激を受けながら、具体化する方法を見つけていきたいと思っています。



トラックで出店 船橋競馬場

この秋&冬イベント

フリーマーケット&イベント会場

| | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| ☆大古着市 | 12月10日&11日 | 10時～16時（雨天中止） | JR船橋駅北口デッキ |
| ☆浦安市民まつり | 10月22日&23日 | 10時～16時（荒天中止） | 浦安市役所新庁舎周辺 |
| ☆行徳まつり | 10月23日 | 9時半～16時（荒天中止） | 行徳駅前公園 |

♪JFSA出店♪ 都内・千葉県内のフリーマーケット会場

●赤羽公園・池袋西口公園・新宿中央公園・大井競馬場・津田沼公園・船橋競馬場・千葉銀座通りなど

●詳しい出店情報は、こちらからもご覧いただけます。→ ホームページ <http://www.jfsa.jp/org/fj.html>

6/5 (日)

6/12 (日)

東葛 & 千葉

チャリティバザール



●東葛センター

朝まで降っていた雨も開催までには止んで、昼間は晴れ間も見られました。フリーマーケット出店はあいにくの雨予報だったためキャンセルもありましたが、倉庫内にスペースをつくり常連の方の出店がありました。



協力出店では、お馴染みの団体さん、農家さんに加え、元アルバイトの女性が美味しいコーヒーで出店してくれました。午前中は親子連れの方が多く見え、子ども向けの遊びコーナーや東葛スタッフお手製のパキスタンカレーを楽しみにして下さっていました。規模は大きくはありませんが、ひとつひとつの出店をみなさんゆつくりと楽しんでくださいました。

子どもに大人気!お菓子を釣るコーナー (中央奥)
雨が上がりカキ氷機を設置する事務局の入江 (右手前)

●千葉センター & 大田切公園 (センター目の前の公園)

当日は蒸し暑い陽気となりましたが、今回も老若男女たくさんの方の来場がありました。

公園内のフリーマーケット出店はこれまでで一番多い48店。協力出店はパキスタンカレーや焼きそばなどの飲食、福祉団体やNPO/NGOの出店、産直野菜販売など16店ありました。今回も多くのボランティアの協力がありました。敬愛大学のボランティアサークルからは13名が参加、駐車場の誘導からカキ氷の販売など...忙しく働いてくれました。



迫力ある太鼓と踊り。みなさん汗ビショリです。



最後は恒例の綱引き!!

端から端まで。こんなに子どもがいたんだ...



お配りするお餅には今回も長い行列!
敬愛大学のOB (写真手前) も手伝いに来てくれました。

☆ 次回の予定 ☆

11月6日 (日) ぽっぽの市 (稲岸公園 千葉市美浜区)

12月4日 (日) 千葉センター 12月25日 (日) 東葛センター

JFSAの会員・支援メンバーとして 活動にご参加ください

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。（正会員：154名 賛助会員：1222名）

正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。

そして皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を押し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）サポーターグッズなどをお送りします。

●年会費（10月～翌年9月）

個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円

団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

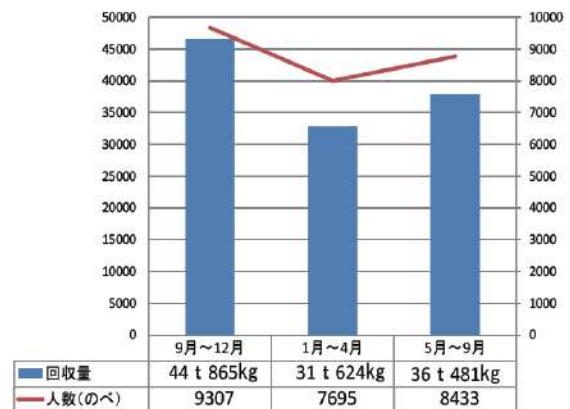
●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198

口座名：JFSA

*活動への寄付にも同じ口座をご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

今年度（2015.09～2016.08）も多くの方が “JFSAの古着や毛布の回収”に参加しました



合計 112トン971.6kg のべ2万5435人

9月28日（水）に今年度4回目の送り出しを行なう予定です。約24トンの古着や毛布を積みこみ、1年間で97トン輸出する予定です。

JFSAでのボランティアのご案内

★ほっほの市★

日時：11月6日（日）

場所：稲岸公園（汽車ほっほ公園）

（千葉市美浜区稲毛海岸4-15）

★チャリティバザール★8時頃～17時頃

●千葉センター

日時：12月4日（日）

場所：JFSA千葉センター&大田切公園

（千葉市中央区都町3-14-10）

●東葛センター

日時：12月25日（日）

場所：JFSA東葛センター

（柏市大室176-1）

★大古着市★

日時：12月10日（土）&11日（日）

7時半～17時頃

場所：JR船橋駅北口デッキ

- コンテナ積みこみ作業（年4回）
- イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業（年3・4回）
- 古着の選別体験（グループ対応）
- 和服整理ボランティア（毎月第1水曜日10時半～）

ボランティアに関する問合せ先

■JFSA千葉センター

電話・FAX：043-234-1206（木曜定休 9時～19時半）

メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：www.jfsa.jp.org

*ボランティアは無償です。

交通費や食費はご自分で負担していただいています。

NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時半/木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町3-14-10 東葛センター 柏市大室176-1

Tel：043-234-1206

Tel：04-7110-0984

★会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://www.jfsa.jp.org



JFSAのホームページ
QRコード